

まちがいがなし

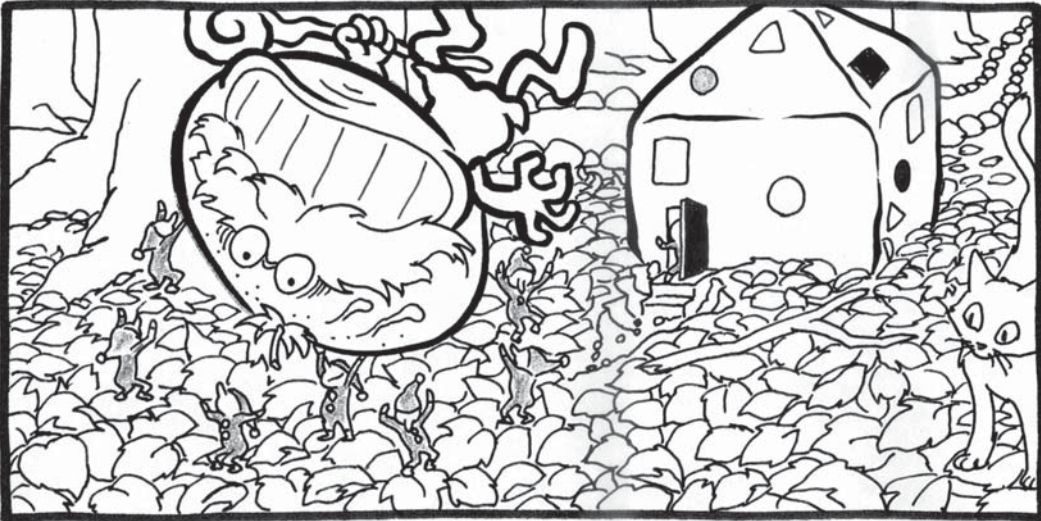
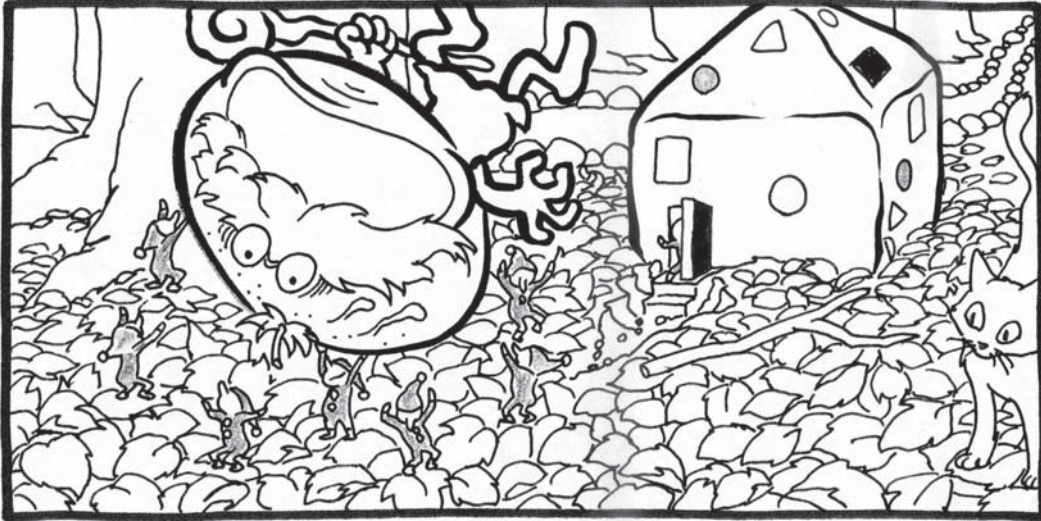
2枚の絵を見くらべて、まちがいを8カ所見つけてね。全問正解された方のうち、抽選で10人の方に図書カードをプレゼントします。

応募方法

ハガキまたはファクスに①答え(左の絵に○をつける)②住所③氏名(ふりがな)④年齢⑤電話番号⑥広報紙の感想、ご意見などを書いて秘書広報課(〒443-8601 66・1190)へ。当選者と答えは、広報がまごおり8月号に掲載します。

とうふねこ座：市川雅子 画 

応募締切 6月15日(水)



学校のふしぎ話⑤

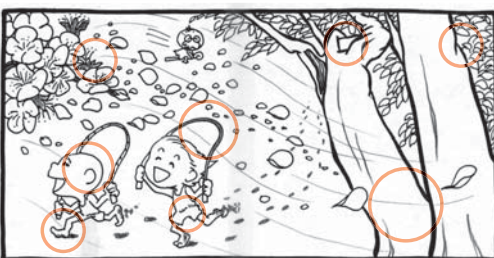
『ある小学校のこびとの話』

学校には2つの顔があります。
1つは人間たちのエネルギーにあふれる明るい昼の顔。
もう1つは、人間の知らない夜の顔。
蒲郡には、この2つの顔を見ることができない不思議なみかん仙人がいるそうです。

ある学校には森がある。その森が今よりずっと深い森だった頃のことだ。昼でも薄暗い森の中には降り積もった落ち葉でふかふかで、その間を北から南へ子猫ぐらいの大きさの石が並べられた、曲がりくねった小道が通る。その小道の脇に白いこびとの家があった。大きさは教室の子ども机くらい。お昼の放課、何人かの子どもたちが走ってきた。「こびとの家つーいた!」「ねえ、ほんとにこびとが入り口かなあ」「入り口だったら階段があるってよ」「ないじゃん」「だれか掘ってみりん」「私やる」「ほい、この木で掘りん」「サンキュー」「ザクザク」「ん?うわあ出た!階段だあ!」「キンコンカン」「ソクッソクッ」「ひょびっリした」「き・きょうしつへ帰ろー」「わー」その夜、学校にみかん仙人がやって来た。「月夜のイイ晩じゃ、この森でひと休み。じゃまな草ぬいて、ほいっとパスッ。草がこびとの家の上に落ちた。」すると、ギ・ギ・ギ・ギギギイ、こびとの家のタイルのドアが開いた!そして「えっほ・えっほ」「こびと達が階段を降りて来た。」

「えっほ・えっほ・ほいさっさー・じいさんを、ひょいっとかたいでほいさっさー」
「うわー、助けて!わしはみかん仙人じゃぞ。おろしてくれー」
こびと達はみかん仙人の周りを怪しく踊りまわった。こびと達が一周回るたびにみかん仙人はちよこつとずつ小さくなっていく……そして「ほいさっさー」小さくなってしまったみかん仙人はこびとの家へ連れ込まれていった。カタツムリ山はなにもなかったかのように月の光を浴びアスレチックの六つの丸太が揺れていた。

4月号の答え



4月号当選者 応募総数 58通 正解者 50人(50音順・敬称略)
蒲郡町 青山心優・鹿島町 石川博行・拾石町 井上優希・神ノ郷町 大場妙子・大塚町 小澤聖真
御幸町 近藤悦子・形原町 佐藤由実・本町 遠山梅子・三谷町 山本さつ子・豊岡町 吉田伸也